

## 名前とアフリカの時間、西洋の時間

前回に続いて、西アフリカの誕生曜日名という特殊な名前をもう少し追いかけてみよう。

前回の悼尾に、エウエ人の「挨拶名」を論じた。今回は、まずガ人の「靈魂名」を見たい。これもまた、通常の誕生曜日名とは別で、特別の機会に用いられる誕生曜日名の独特の変異形である。

## ■ガ人の「靈魂名」

他のトゥイ語系の人々の場合と同様、ガ人でも、誕生曜日名は人名の最初に来る名前、いわゆるファースト・ネームである。だが、同じガ人の「靈魂名」はそうではなく、誰かへの嘆願、称賛、あるいは感謝を表明する機会にのみ用いられる。というのは、嘆願、称賛、感謝などは、当の本人自身ではなく、その靈魂 (*Kra*) に対して行われるものだと考えられているからだ。ガ人は、人の体に宿る靈魂がその人を通して力を行使すると、あるいは、靈魂は至高の存在の媒介者だと信じてきた [Quartey-Papafio, A. B., "The Use of Names among the Gas or Accra People of the Gold Coast", *Journal of the African Studies* 13, 1914. ]。

「靈魂名」は、自分の靈魂に意見を伺おうとして、ガ人が呪物の祭司を訪れる折にも使われる。呪物の祭司たちだけが託宣を聞き分けるのだが、彼らはガ人の靈魂、死者の霊、精霊は純粋な言語だけを話すという。ところが、ガの「靈魂名」は誕生曜日名と同じく、アカン的な名前だし、靈魂を指す *Kra* やその類語である *susuma* も、やはりアカン・トゥイ語起源なのだ。ガ人の「靈魂名」も、エウエ人の「挨拶名」と同様、アカン群の誕生曜日名がより高度に分化した例であり、アカン風の宗教観念にもより適合的である。しかし、これもまた起源の

古さではなく、むしろ新しさを示す例なのだ。

## ■「挨拶名」の比較

次に、曜日ごとのガの「靈魂名」を、実際に誕生曜日名と対照しながら一覧してみよう。

	Gaの誕生曜日名		Gaの靈魂名	
月	Kojo	/ Ajua	Ajo, Kojo	/ Ajo, Ajua
火	Kobla, Kwabina	/ Abla	Abla	/ Abla
水	Kobina			
木	Kwaku, Kweku	/ Aku, Akua	Aku,	/ Aku
金	Yao, Kwao	/ yawa	Awo, Aho	/ Awo, Aho
土	Aba			
日	Kofi	/ Afua, Afia	Afi	/ Afi
	Kwarmine,	/ Ama	Ameng'	/ Ameng'
	Kwame			
	Kwesti,	/ Akosia	Awushi	/ Awushi
	Kwashi			

一覧表を見てすぐに気づくのは、ガの「靈魂名」とエウエの「挨拶名」(月: Ame、火: Awusi、水: Adzo、木: Abra、金: Aku、土: Awo、日: Afi) との間の、次のような共通点だ。第一に、男女の区別がなく、第二に、曜日ごとに一つの名前があるだけだ(いずれもガの月曜日の靈魂名が例外といえはいえる。また、木曜日の Awo と Aho の音声上の差異は小さい)。

さらに、名称自体にも、順不同だが、かなりの重なり合いが見受けられる。恐らく、誕生曜日名のこの二つの変異型は、エウエ群がアカン群の誕生曜日名を受容した後に、ガ人とエウエ人がアカンの宗教を各々独自の形で展開した結果として生まれたのではないか。

そこで、連載第44回で引いた、或るアカン人の言葉が思い出される。彼は、誕生と同時に「子供には精神を表す名とか運命の名とかいうものが、生まれた日の曜日にしたがって自動的につけられる」と述べた [クワベナ、アジャバ「金葉 (ガーナ) における子どもの名付け」『月

刊アフリカ』30 (10)、1990]。つまり、アカンでは、誕生日日名それ自体がエウエの「挨拶名」やガの「靈魂名」の性質を既に帯びている事が判るだろう。

### ■クワメ・ンクルマの誕生日

既に一、二度引用したように、ガーナ建国の父、クワメ・ンクルマは、自分の誕生に関して確からしいのは、9月半ばの土曜日の正午頃にンジマのシクロフル村で生まれたことだけだ、と自伝に書いた。前回紹介した通り、アカン人は土曜日に生まれた男児をKwameと名付ける。

ところが、パスポートに記載された彼の名前は「フランシス・ヌウィア・コフィ・エンクルマ (ンクルマ：小馬注)」だという新聞のインタビュー記事[朝日新聞、1999年3月10日]に出合って、思わず膝を打った。Kofiは、金曜日に生まれたトゥイ語系の男性の誕生日日名である。語り手は、かつてガーナ独立運動当時ンクルマ等「ビッグ6」と呼ばれた指導者の一人で、現在アクラに住んでいる「アコ・アジェイ」(82歳)。

二人は、留学先の合衆国リンカーン大学で出会い、流行のパン・アフリカニズムに共に傾倒した。ある時、アジェイはンクルマの名前の由来を尋ねる。ンクルマは、正確な誕生日を知らなかったが、「母親から夜遅く生まれたと聞かされていた」。アジェイは言った。「日没後に生まれたのなら、我々の文化では金曜日ではなく、土曜生まれ。コフィは、西洋暦の名前だ。土曜生まれなら、クワメではないか」。同士の間から拍手が沸き起こった。『クワメ・エンクルマ』が植民地支配者の文化を捨て、その名を得た瞬間だった」[前掲記事]。

### ■アフリカの時間、西欧の時間

アジェイの語った時間観は、アカン、あるいはガーナだけのものではない。東アフリカの共通語であるスワヒリ語でも、あるいはその他の東アフリカの民族語でも、その時刻は西洋の時刻と丁度6時間ずれていて、日の出と日没が0

時になる——アフリカの他の地方も同じか。

同じアカン群に属するガーナのアカン人とコートジボワールのバウレ人の誕生日日名のセットは、ほとんど同じなのに、丁度一日ずれている。我々は、この事実には隠されている秘密を解く鍵を今漸く手に入れたのだ。つまり、アフリカの(近代的な)時刻と西欧の時刻の観念の間には、アジェイが述べた通り、6時間、即ち1/4日のズレがある。アフリカ式の日が部分的に重なり合っている西欧式の二つの日。或る時点がそのどちら側に属すると見做すかで、曜日が一日ずれる結果になるのだ！

実は、私は連載第44回を書く時に、これと同じ推定をしていた。それは、ガ語に関する次のような記述を心に留めていたからだ。「ガ語では週の曜日の名前は7つなのに、ガ人は時間を数える時に週を8日と見做すと言われる。奇妙なことだ」[Quartey-Papafio, ibid.]。

報告者は、真相をこう推定した。「彼らは事が起きた日を勘定に入れられず、次の同じ曜日を週の曜日の内に入れる。そして誕生[曜]日名としてAkan-Twiの週の曜日の名前を用いるのだ」。彼は、これがガ人が誕生日日名をアカン人から借用した証拠だとしつつ、アカンでもガと同様に7つの曜日からなる週が8日と見なされていると述べている [ibid]。これでは全く要領を得ない。そこで、私は上記の仮説で解決できると考えたのだった。

ちなみに、私に確証を与えてくれたアジェイは何人だろう。新聞は彼のファースト・ネームをアコとする。対応する男子の誕生日日名は、恐らく水曜日のAkuである——前回記事参照。クワ語系のUは円唇で、日本語のオの音に近はずだから、記者はAkuの音をアコと聞き取ってしまったのだろう。すると、アジェイはエウエ人であることになる。

比較研究を丹念におし進めれば、他の調査者や記録者が見落したものや目を向けなかったものを再現できることがある。

(こんま とおる 神奈川大学 社会人類学)

※月刊アフリカ2000年5月号「アフリカの人々」と名付け65」の22頁右上から7行目「[Quartey Papafio, …] → 「[Quartey-Papafio, …]」、22頁右下の表の水曜日のFantiの欄「Wkuda」→ 「Wukuda」、23頁左下の表の右上の「Fanti」→ 「Ewe」、23頁右下から5行目「人々にはなく、」→ 「人々の間にはなく、」の誤りです。ここに訂正とお詫びを申し上げます。